

請願第4号	受理年月日	令和3年9月8日
付託委員会	総務財政委員会	
件名	沖縄戦戦没者の遺骨の残る土砂を辺野古新基地建設の埋立てに使用しないことを求める意見書の提出について	
要旨	<p>米軍の戦史に、ありったけの地獄を集めたと刻まれた沖縄戦で、日米合わせて20万人以上が亡くなった。戦没者の人数は、住民約94,000人、日本軍94,136人、米軍12,520人と記されている。また、平和の礎の24万人を超える刻銘者のうち、福岡県出身者は4,030人、韓国を中心とするアジアの人々は498人となっている。激戦地となった沖縄県南部の土砂には、沖縄の方々のみならず、多くの人々の血が染み込んでいる。</p> <p>そういう土地で、40年近く戦争犠牲者の遺骨を探し続けてきた遺骨収集ボランティア、ガマフヤーの具志堅隆松氏は、「ごうの奥で見つかる遺骨は上半身のないものが多く、少し離れたところから出てきた上半身の骨は、どれも短く割れている。手りゅう弾で自害した遺骨である。本島南部では、いまだにどこを掘っても遺骨が出てくる。骨は白いと考えがちだが、土から掘り起こされた骨は土と同じ色をしている。そうした遺骨と石灰岩を見分けることは、とても難しい。」と言う。また、小淵恵三元首相が学生時代、占領下の沖縄で度々遺骨収集に参加してきた話はよく知られている。</p> <p>そして今、沖縄戦で命を落とした戦没者の遺骨が混入した土砂が、辺野古新基地建設の埋立てに使用されようとしている。遺骨を土砂とともに埋立てに使ってしまえば、二度と収集することはできない。沖縄県南部には、約3,000柱の遺骨がまだ残ると言われている。沖縄戦で犠牲になった方々の御遺骨はもちろん、その血が染み込んだ土砂を用いることは、人道上許されない。</p> <p>今必要なのは、戦没者の遺骨収集の推進に関する法律の基、日本政府が主体となって戦没者の遺骨収集を実施することではないだろうか。</p> <p>については、北九州市議会として、政府に対し、下記事項を内容とする</p>	

(続 く)

意見書を提出していただきたい。

記

- 1 悲惨な沖縄戦の戦没者の遺骨が残る土砂を、辺野古新基地の埋立てに使用しないこと。
- 2 戦没者の遺骨収集の推進に関する法律に基づき、日本政府が主体となって戦没者の遺骨収集を実施すること。